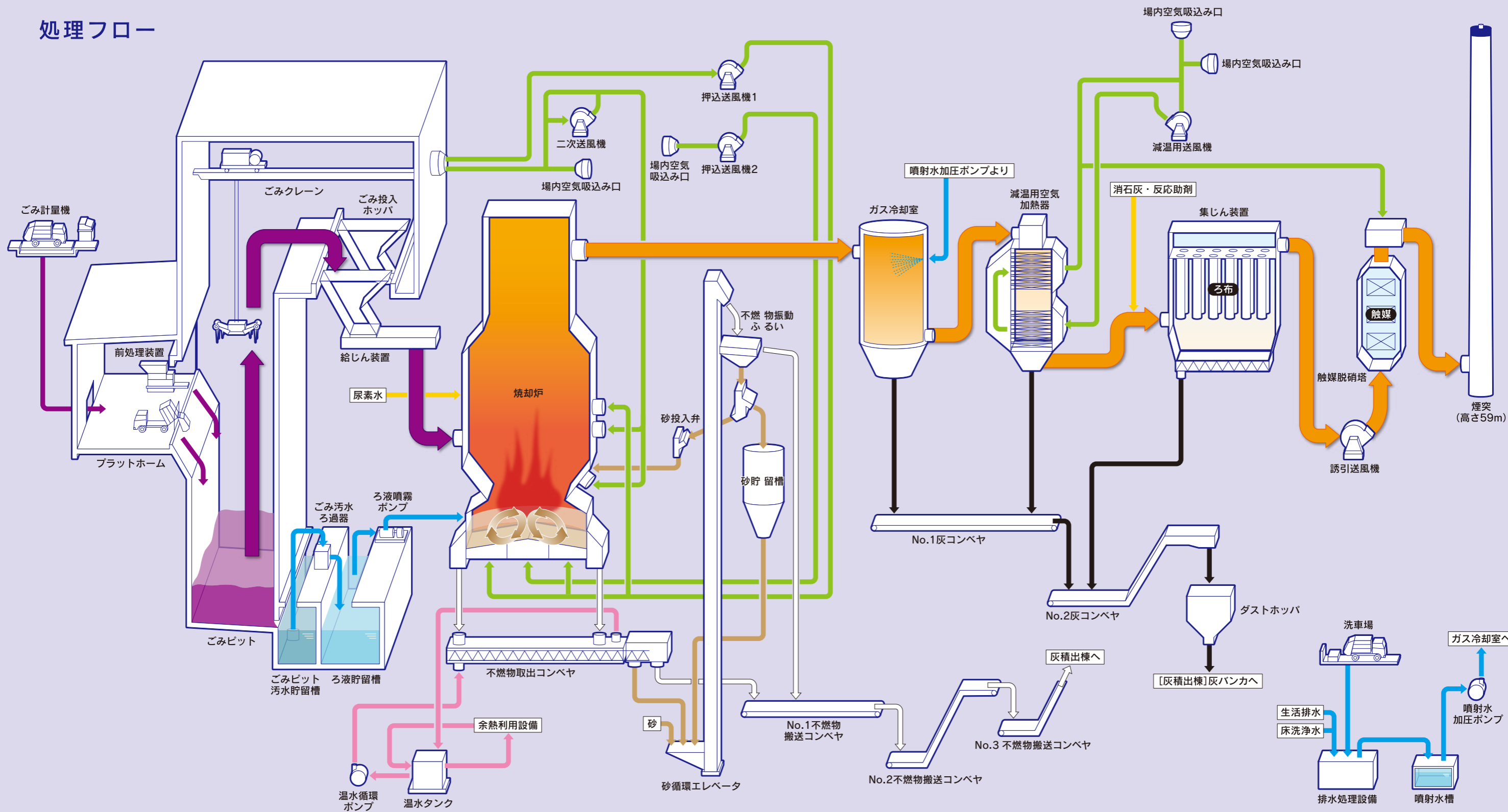


処理フロー



ごみの流れ

収集したごみは、プラットホームからごみピットへ投入し貯留します。このごみは、ごみクレーンで攪拌、均一化を行ったあと、ごみ投入ホツパへ運ばれ、給じん装置により焼却炉へ自動供給されます。焼却炉内には約600℃に熱せられた砂が回転、流動しており、この砂への接触によりごみを燃焼させます。

排ガスと薬剤の流れ

排ガスの流れ → 薬剤の流れ →  
 ごみを燃焼させることにより発生した排ガスは、焼却炉の出口付近で850℃以上になります。高温になった排ガスは、ガス冷却室による水冷却でおよそ400℃以下まで、減温用空気加熱器による空気熱交換で200℃以下まで、それぞれ冷却を行います。その後、集じん装置入口で薬剤を投入することで、灰とともに有害物質をフィルタ(ろ布)で捕集、除去し、さらに触媒脱硝塔を通過させることでダイオキシン類の低減を行ったうえで、煙突から大気に放出します。

空気の流れ

→  
 押込送風機と二次送風機で、主にゴミピットの空気を燃焼用として炉内に送っています。これにより、ゴミピットの臭気を外部に漏らさないような構造にもなっています。また、減温用送風機で工場内の空気を吸引し、減温用空気加熱器で熱交換を行い、煙突入口に合流させることで排ガスを冷却し、煙突から放出する水蒸気を見えにくくしています。

灰と砂と不燃物の流れ

灰の流れ → 砂の流れ → 不燃物の流れ ⇄  
 灰は集じん装置等で捕集した後は灰バンカに貯留します。搬出先の処理方法に応じた形態で搬出できるように複数の搬出ラインを用意しています。また、砂と不燃物は不燃物取出コンベヤによって焼却炉下部から抜き出され、不燃物振動ふるい分けを行った後、砂は焼却炉内に戻され、不燃物は磁選機によって不燃分と鉄分に選別し、それぞれのバンカに貯留します。

汚水と温水の流れ

汚水の流れ → 温水の流れ →  
 洗車場排水やゴミピット汚水など、工場内で発生した汚水は薬剤処理等を行ったうえで焼却炉やガス冷却室に噴霧しています。また、高温の砂を焼却炉から抜き出す不燃物取出コンベヤの冷却に使用している水は、冷却を行っている過程で温水となるため、センター内の給湯や暖房に有効利用しています。